



TITLE:

晉代における將軍號と都督

AUTHOR(S):

小尾, 孟夫

CITATION:

小尾, 孟夫. 晉代における將軍號と都督. 東洋史研究 1978, 37(3): 418-441

ISSUE DATE:

1978-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153709>

RIGHT:

晉代における將軍號と都督

小 尾 孟 夫

はじめに

一 「四征」將軍、都督に關する諸問題

二 「四征」將軍と都督

三 晉代における將軍號と都督

(一) 將軍號と都督の形態

(二) 四中郎將の地位の變化

(三) 都督の將軍號の意義

おわりに

はじめに

魏晉南朝時代の地方軍の主力となったのは、都督^①や刺史などに率いられる軍隊である。都督の存在形態、都督の軍事的管轄範圍を表わす都督區、都督と刺史との關係、軍府組織などについては、嚴耕望氏による魏晉南北朝を通じて體系的な研究が行なわれている。^②ところで中央軍、地方軍を問わず、軍事指揮者は將軍號を與えられている。この將軍號と都督との關係を初めて取り上げられたのは越智重明氏である。氏は「四征」將軍と都督^③との軍事的支配關係について追究され、軍事指揮者として一定の權能を有していた「四征」將軍が、東晉時代以降それを失い、虛號化したと主張しておられる。^④また宮崎市定氏は、東晉時代以降、將軍號が濫發され、將軍が多くなって、全く名目だけのものとなり、虛號と稱される

ようになったと述べておられる。^⑨ 本稿は南朝に向けて將軍號が虚號化をたどるその過程の中で、「四征」將軍號がその領職である都督との關係において如何に變化していったかを主として論じ、あわせて、都督制度の發展過程をも述べたい。

一 「四征」將軍、都督に關する諸問題

魏西晉時代において、「四征」將軍が都督よりも軍事的優位に立つて支配統轄していたとされる越智氏の見解は、「四征」將軍が都督を領職としている状況を一應切り離して、別々のものとして考えるところから導き出されたものである。即ち、魏西晉時代において、「四征」將軍は都督を領職としていようといまいと、それ自體固定的な管轄諸州を持っていた、その管轄諸州内の都督、刺史に對して軍事的支配を行なうとされる。この見解の導き出される主要な論據は次の二點であると考えられる。一つは、西晉の初期と後期における「四征」將軍の都督に對する實際の軍事的支配の事實であり、一つは、「四征」將軍、都督、刺史の魏晉における官品上の上下關係に基づいている。第一の點から検討する。まず、『晉書』羊祜傳^⑩に、西晉、武帝の咸寧年間の初めに、征南大將軍、開府儀同三司となった羊祜は、以前から吳を伐つには上流からの軍勢の援助が必要だと考えていたが、しかもそれには吳の童謠が暗示しているように、水軍によるべきで、それに適當な人物をと思っていたところ、たまたま、益州刺史の王濬が朝廷に呼び返されて大司農となるところであったので、彼を上表して留めて、監益州諸軍事、加龍驤將軍とし、密かに舟を造らせて、流れに順う計略をなしたという記事があり、征南大將軍羊祜が監益州諸軍事、加龍驤將軍王濬を支配統轄したとされる。この記事は、『晉書』王濬傳^⑪に關連記事があり、その経緯が少し違っている。益州刺史であった王濬は、右衛將軍、大司農として召還されようとした時に、車騎將軍であった羊祜が王濬に奇略あるのを知って、密かに上表した結果、重ねて益州刺史とされた。武帝は吳を伐つ計劃を立て王濬に舟を建造させた。そして羊祜傳にあるような謠言が契機となって濬を龍驤將軍、監梁益諸軍事にしたとある。

更に羊祜についてであるが、彼はこの時に都督荊州諸軍事であつたと考えられる。羊祜は泰始五年二月に都督荊州諸軍事、假節、散騎常侍、衛將軍となつてから、續いて車騎將軍、開府儀同三司となり、荊州刺史楊肇とともに吳の陸抗を攻めるのに失敗して、平南將軍に降號され、咸寧二年一〇月に征南大將軍、開府儀同三司と號を進めた。従つて羊祜が益州刺史王濬に軍事的才能を認めて、上流に據らせて、自己の援軍にしようとしたのは、羊祜が車騎將軍であつた時からのことである。それは羊祜が都督荊州諸軍事として吳を伐つに際して荊州の軍事を擔當すべき立場から出てきた意向であつて、羊祜は上表することによってそれを行なつてゐる。この點から征南大將軍を都督荊州諸軍事と切り離して、羊祜が征南大將軍の立場から龍驤將軍、監益州（梁益）諸軍事、王濬を軍事的に支配統轄したとは斷定できないように思われる。次に『晉書』周馥傳の記事についてであるが、鎮東將軍、都督揚州諸軍事、周馥は壽春に鎮しており、西晉末に到り、洛陽が危險に陥つたので、天子を迎えて都を壽春に遷すことを建策した。永嘉四年、長史吳思、司馬殷識とともに上書し、その中で、具體的にその方策を述べてゐるが、以前に北中郎將であつた裴憲を招集して、「使持節、監豫州諸軍事、東中郎將」の任につかせようとしている。このことは結局實現しなかつた。周馥が裴憲に對して、行官として權宜的にはあれ、都督として任用したい意向は十分に汲み取れるが、それを鎮東將軍としての立場からのみ行ない、その上更に支配統轄しようとしたとまで斷定できるであらうか。

次に第二の點を検討する。『通典』職官、秩品、魏の官品に依れば、四征、四鎮將軍は第二品、征・鎮・安・平將軍は第三品、州領兵刺史は第四品、都督、州單車刺史は第五品である。同じく『通典』職官、秩品、晉官品では、征・鎮・安・平將軍は第三品、州刺史領兵者は第四品、諸持節都督は第二品、都督は第五品、州單車刺史について記載はないが、魏と同様第五品と考えられる。同じく、宋官品では、諸征鎮至龍驤將軍は第三品、刺史領兵者は第四品、刺史不領兵者は第五品、諸持節都督は第二品である。これらの點と、『通典』の晉・宋官品の「諸持節都督」が、魏初以來の節と都督との一體化を踏まえたもので、その表現であるとの認識から、次のように結論を導かれる。

「(1)魏時代、四征將軍が都督の上位にあったが、晉時代以後、(都督が持節都督となって)その上下が逆になっていること、(2)魏時代、都督が領兵刺史の下位、單車刺史と同位(同官品)にあったが、晉時代以後、すべての刺史の上位となったこと、(3)総合的に言って、魏時代、四征將軍、都督、刺史三者中、都督が最下位にあったが、晉時代以後(持節都督として)最上位となったことが知られるであろう。」

この結論が導き出されるのに重要な役割を占めているのは、『通典』の魏・晉官品表に載せられた、都督(五品)から諸持節都督(二品)への變化である。諸持節都督が二品として官品表に載り、官として扱われたことを示す事實は、外に『宋書』の百官志、官品表にあるのみである。それが晉代の何時頃そうなったのか、また「諸持節都督」とは具體的に何を指しているのか不明である。都督には都督中外諸軍事、都督征討諸軍事などもあるが、本稿で取り上げる都督州(郡)諸軍事について言えば、周知の如く、都督諸軍、監諸軍、督諸軍の三段階に分かれ、更に節として、使持節、持節、假節が加えられる^④。この外に節を持たない者もいる。それらの間には、固定した組み合わせはなく、節を持つ場合の組み合わせは、都督諸軍・使持節、都督諸軍・假節など合計九通り考えられ、實際にもそのような實例が存在している^⑤。ところで、『晉書』職官志に依れば、この持節都督であることは何ら本官の官品に影響を與えておらず、軍府の府官の構成に變化を與えているだけである。將軍について見ると、驃騎、車騎、衛將軍や諸大將軍が開府した場合、位從公として三公に次ぐ官位を與えられ、第一品となり、そして長史以下の府官を置くことになるが、更に開府位從公で兵を率いる者は、司馬を始めとして増員され、持節都督である場合には參軍が増して六人となる。更に「驃騎已下及諸大將軍不開府非持節都督者、品秩第二」とあり、「四征鎮安平加大將軍不開府、持節都督者、品秩第二」とある。諸大將軍の中に少くとも四征、四鎮大將軍が入るが、その場合、開府しなければ、持節都督であろうとなかろうと第二品なのである。但しこれらは一、二品の將軍で、持節都督であった場合の様子が分かるのみで、三品の將軍に持節都督が與えられるとどうなるかについては知ることができない。又、『隋書』百官志上、陳制、揚州刺史の項の注に、

凡單車刺史加督進一品、都督進二品、不論持節假節、揚州徐州加督進二品、……

とあって、單車刺史（五品）に督を加えると四品に、都督を加えると三品になるとある。ここでは節に關係なく、都督であることが刺史の官品に影響を與えている。これは『通典』や『宋書』における諸持節都督が二品であるというのと在り方を異にする。ところで『通典』魏の官品表に記載された「都督」（五品）については、嚴耕望氏は「都督」の次に記されている「護軍」とを結びつけて「都督護軍」として理解され、同じく五品の條の「諸軍司」とともに、都督諸州軍事の任にある將軍が開府して置いた屬官とされている。^⑤ 同じく晉の官品表第五品の條の「都督」についても、『通典』の通行本の殿本では、「都督」と「護軍」とを別ものであるかの如く離して記載してあるが宋本では「都督護軍」と一續きになっている。^⑥ この點でまだ検討の餘地があると思う。更に都督の淵源については、後漢、順帝の時、御史中丞馮緄が州軍事を督して賊を討った例が考えられるが、後漢末の混亂狀態の中で軍事的要請から發達し、曹操は政權確立過程において一定の地域に對して、その軍事に責任を持たせる方式を採用し、それが魏王朝の都督として制度化されたと考えられる。^⑦ 都督は本來、民政長官である州刺史（州牧）や郡太守、一軍を率いる武將（將軍）に對して領職として與えられたもので、官品に列せられる本官ではなかったと思われる。その轉換が實際に行なわれたのかどうか、論すべき點がまだ多いように思う。

以上の如く、筆者は「四征」將軍と都督との軍事的支配關係についての越智氏の論據に對して疑問を抱いているのであるが、問題の解決は容易でない。筆者は魏晉時代において、都督が「四征」將軍の領職であつたと考えたいのであるが、以下その觀點から、「四征」將軍と都督との關係を見ていきたいと思います。

二 「四征」將軍と都督

魏晉時代「四征」將軍が都督や刺史と結びつくことなく單獨で存在したかどうかについてであるが、史料の記載例は實

に統一がなく、そこから直ちに斷定するのは困難である。但し大部分の「四征」將軍は都督を領職としてゐること、又、「四征」將軍は民政長官である刺史にも與えられる場合があると言える。その場合も、魏ではそれと判斷できる例はほとんどなく、晉でも少ない。ところで「四征」將軍がそれ自身で固定的な管轄諸州を持ち、且つその諸州の都督、刺史に支配を及ぼしうるとの判斷であるが、先に擧げた周馥の場合で見ると、彼は鎮東將軍、都督揚州諸軍事であり、鎮東將軍として揚州以外の各州の都督、刺史に對しても軍事的に支配を及ぼしうるといふ理解である。彼は都督揚州諸軍事として揚州刺史を軍事的に支配できるし、揚州内の軍事全般に渡つて責任を持つてゐるが、鎮東將軍が揚州を越えて東方の諸州に對して軍事的支配力を及ぼすといふことになれば、殊更、都督揚州諸軍事を領職とする必要はないと思われる。「四征」將軍と都督とを分離させて論じる場合、この點の理由の説明が成し難いように思ふ。このような考え方から、筆者は既に三國魏時代における「四征」將軍と都督との關係を若干論じた。それに依れば、「四征」將軍と都督との結びつきは他どの將軍號の場合よりも多いといふこと、更に言えば、兩者の結びつきが一般的であつたようである。「四征」將軍は他の將軍と同様に常官化されており、交代して任用される。「四征」將軍の東西南北は都督區と密接に關連してゐる。その都督區は一州位の規模に分化する傾向がある。都督は管轄區域の軍事に關して監督、指揮する役割を持つことを意味するが、「四征」將軍は都督を領職とすることにより、軍事的に各州を基盤とすることができ、對外戰爭においても主要な役割を果たしてゐる。但し、全般的な傾向としては、「四征」將軍が都督を據り所として、地方の軍事を廣範圍に結集して擴大化の方向をとるのは困難であつたようである。都督の管轄範圍が一州位の規模に分化する傾向は述べた通りであるが、更に初めから「四征」將軍のみが、都督を獨占して領職とせず、都督が「四征」將軍の卒を出て、他の將軍などの領職とされることもあり、これが進展すると、「四征」將軍が都督任用者の官位の上下を示す稱號に成りかねないのである。これは晉代における「四征」將軍と都督の地位の變化を豫測させるが、次に「四征」將軍の官品、「四征」將軍と都督區との關連に觸れておきたい。

『通典』職官、魏官品表に依れば、第二品には「諸四征四鎮車騎驃騎將軍 諸大將軍」とあり、第三品には「諸征鎮安平將軍」とある。清の洪飴孫の『三國職官表』では、四征、四鎮將軍を二品、四安、四平將軍を三品としている。『通典』魏官品表を文字通り解釋すれば、四征、四鎮將軍の班位が車騎、驃騎將軍より高位にあって二品である場合と、同時に三品の四征、四鎮將軍とが存在したことになる。しかし、『宋書』百官志、征東將軍の條に、

魚豢曰「四征、魏武帝置、秩二千(石)。黃初中、位次三公。漢舊諸征與偏裨雜號同。」

とあり、四征將軍、恐らく四鎮將軍も魏の初期、文帝の黃初年間、三公に次ぐ位にあり、他のどの將軍號よりも位が高く、二品であったと考えられる。そしてその後、四征、四鎮將軍は、四安、四平將軍とともに三品の將軍になつてしまつたと考えられる。従つて、魏の中期から後期に至ると、石苞が征東大將軍から驃騎將軍となり、王昶が征南大將軍、儀同三司から位を驃騎將軍に進め、郭淮が征西將軍から車騎將軍、儀同三司へ、趙儼が征西將軍から驃騎將軍へとなつてゐること、即ち四征、四鎮將軍は、車騎、驃騎將軍の下位に轉じたのである。以後、晉代を通じて、四征、四鎮將軍は四安、四平將軍とともに三品である。「四征」將軍は、東西南北による上下の差はないが、平、安、鎮、征と位が高くなつていき、四征鎮安平將軍が大將軍となると二品、更に開府すれば位從公となり、三公に次ぐ位として一品となる。従つて「四征」將軍のみで一品から三品までの地位を占めることができる。ところでこの「四征」將軍と同様に都督と結びついてゐる將軍號に、東西南北の中郎將、即ち四中郎將があり、『通典』魏晉官品表に依れば四品である。雜號と稱される將軍號がまだ多く現れないこの時代において、將軍號の中心は五品將軍までであつたが、方面の軍事に携わる者に對して一品から四品までの將軍號が用意されてゐたことになる。以下の考察において、四中郎將をも含めて検討したい。

次に「四征」將軍と都督區の關連を見る。それを表にすると次の如くである。「四征」將軍の東西南北の區別は、都督としての鎮所の地理的位置と關連しており、魏、西晉においては、首都洛陽を中心にした東西南北の地域が考慮されており、東晉における變化は、都を江南、建康の地に移したことによる。魏、西晉において、豫州都督は東、南何れかを冠し

扶風王駿 (安東・安東大)	姓名	將軍號	節	都督	刺史	史料
	(1) 揚州都督					
	使	都督、揚				
	晉	38				
褚周王陳						
碧浚渾鷲						
(大將軍)						
安東 安東・征東大						
假黃鉞 使						
〃 〃 〃 〃						
〃 〃 〃 〃						
〃 〃 〃 〃						
3 61 42 35						

西晉都督任用表

次に西晉、東晉時代における將軍號と都督の結合状態を知るために、都督區別に實例を擧げる。^③

(一) 將軍號と都督の形態

三 晉代における將軍號と都督

(東晉は都督區を表わす)

東晉		西晉	魏	王朝 「四征」
廣 沔 江 州 中 州	益 豫 荆 州 州 州	青・徐都督	揚州都督	東
		豫州都督	豫州都督	南
徐 州	幽・平都督	荆州都督	荆州都督	西
		關中都督	雍涼都督	北

た「四征」將軍號と結びついている。東晉では、都が東に偏った位置に置かれ、東西南北のバランスが崩れ、荆州を都督する者は南から西に變ったのに、荆州北部の沔中を都督する者は南のままという具合である。近畿に於たる揚州都督區と會稽都督區を都督する者には、東を冠した「四征」將軍は與えられていない。

高密王泰	賈充	扶風王駿	石鑒	汝南王亮	(6) 關中都督	卞敦	羊伊	孟觀	胡奮	盧欽	(5) 河北都督	第五猗	山簡	高密王略	王澄	劉弘	新野王歆	裴楷	楚王瑋
安西、鎮西	車騎	鎮西大、征西大 (開府儀同)	行安西	(鎮西)、平西		振威	平南	安南	左	平南		征南大	征南	征南大↓開府	開府儀同	鎮南、鎮南大· 開府儀同	鎮南大·開府儀	安南	平南、鎮南
假	使	使	持				假	假	假	假			使	使	使	使	假	假	假
都督、關中	都督、秦涼(不行)	都督、雍涼	都督、秦(都督、隴右)	都督、關中雍涼		監、河北七郡	都督、江北	監、(河)北	都督、江北	都督、河北		監、荆湘交廣 ↓+寧益	都督、荆	都督	都督	都督	都督	都督	都督
〃	〃	〃	〃	晉		江夏相	〃	〃	〃	〃	晉	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
37	40	38	44	59		70	34	60	3	44		58	43	37	43	66	38	35	59

梁王彤	趙王倫	山濤	高密王泰	彭城王琨	高陽王珪	(8) 鄴城督	劉琨	新蔡王騰	王浚	劉弘	張華	唐彬	太原王輔	衛瓘	(7) 幽州·并州都督	南陽王模	梁柳	河間王顥	趙王倫	梁王彤	秦王柬	
北中郎將	北中郎將	安北	安北	〃	北中郎將		大將軍、太尉	寧北、安北	寧朔、安北	寧朔	安北	右	征北大	征北大		征西大·開府、 太尉	鎮西	西大(征西大)· 征西(鎮西)	征西、開府儀同	征西、征西大	鎮西	
							假	持	持	假	持	使								假	假	
〃	〃	〃	督、鄴城守	督、鄴城守	督、鄴城守		幽	都督、并	都督、幽	監、幽	都督、幽	監、幽	都督、幽↓+平	都督、幽		秦雍梁益	守關中	鎮關中	(都督、雍梁)	都督、關中↓+	都督、關中	
							并州						幽州									
〃	〃	〃	〃	〃	晉		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	晉		〃	〃	〃	〃	〃	〃	
38	59	43	〃	〃	37		62	37	39	66	36	42	37	36		37	59	59	4	59	38	64

河間王顯	北中郎將
成都王穎	平北・鎮北大征
南陽王模	北大・開府儀同
北中郎將	
寧北	

監、鄴城
鎮鄴
鎮鄴
都督、冀

〃	〃	〃	〃
4	37	59	59

豫章王熾	鎮北大
和郁	安北、征北
丁紹	寧北
新蔡王騰	車騎

假

都督、鄴城守
鎮鄴
監、冀
都督、鄴城守
都督、司冀

冀州

〃	〃	〃	〃
5	37	90	100

(西晉時代)

都督諸軍事の形態が主となっているのは、揚州都督、荊州都督、關中都督である。都督、監諸軍事の二形態をとるのは、青・徐都督、豫州都督、沔北都督、幽・并都督である。豫州都督では、都督の最高位を示す大都督と與えられた例があるが、これは特例である。鄴城守諸軍事は督諸軍事の形を取ることが多いので「鄴城督」と稱されるが、僅かながら、監諸軍事、都督諸軍事の例もある。

西晉都督と將軍號などの結合例をまとめると次の如くである。都督諸軍事の場合、「四征」將軍（一品～三品）を中心に、その他、大司馬、大將軍、驃騎・車騎・衛將軍（開府儀同三司の者もいる）、撫軍將軍、左將軍、寧朔將軍、寧北將軍、東中郎將と結びついており、一品から四品に及ぶが、主たる結合は、三品の四安・四平將軍より上位の將軍號であり、「四征」將軍が中心である。監諸軍事の場合は、四安・四平將軍、前・右將軍、征虜將軍、寧朔將軍、振威將軍、北中郎將などが結びついており、三品から四品に及ぶが、主體は三品の將軍である。督諸軍事が現われるのは、鄴城守だけでなく、北中郎將（四品）と結びつくことが多いが、安北・平北將軍も與えられている。従って監、督諸軍事の將軍號の上限は、四安・四平の三品の將軍であり、下限は四品の將軍である。

東晉都督任用表

(1) 揚州都督區		姓名	將軍號	節	都督	刺史	史料
王含	征東(征東大)	假	都督、揚州江西	揚	晉6·98		
庾冰	征虜、中書監		都督、揚豫兗				
何充	(驃騎)·中書監 ·錄尚書事	〃	都督、揚豫·徐州之琅邪	〃	〃7·77		
殷浩	中軍	〃	都督、揚豫兗	(〃)	〃		
王述	征虜、衛		都督、揚·徐州之琅邪	(〃)	〃		
桓沖	中軍	(假)	都督、揚豫江	揚·豫	〃9·74		
謝安	(中書監·錄尚書事) 衛·開府儀同 太保	假	都督、揚豫兗 青·幽州燕國	(揚)	〃9·79		
司馬元顯	後·開府儀同		都督十五州 大都督十六州	(揚)	〃		10
(2) 會稽都督區							
王舒	(撫軍)		監、浙江東五郡	(會稽內史)	晉		76
郗愔	鎮軍		都督、浙江東五郡	(〃)	〃		67
王蒼	左、鎮軍		督、浙江東五郡	會稽內史	〃		65
王蘊	鎮軍		都督、浙江東五郡	〃	〃		93
謝琰			都督、五郡	〃	〃		79
劉牢之	鎮北		都督、會稽五郡	會稽內史	〃		84
何無忌	右	(※持)	督、江東五郡	〃	〃		85
(3) 江州都督區 (西晉)							
司馬休之	(後)	孔靖	征虜	督、浙江東五郡	(〃)	會稽內史	宋
豫章王端	平南	王敦	鎮東大·開府儀同	都督、江	江	晉	64
假		都督、江	交廣	江	晉	98	
(東晉)		使	都督、江	江	晉	70	
應詹	平南	溫嶠	平南、驃騎·開府儀同	都督、江	〃	〃7·67	81
假		都督、江	〃	〃	〃	〃	73
劉胤	平南	庾冰	車騎	都督、江荆司梁	〃	〃	8
假		都督、江	〃	〃	〃	〃	74
桓雲	假	都督、江	〃	〃	〃	〃	74
桓沖	南中郎將	〃	〃	〃	〃	〃	74
桓嗣	建威	〃	〃	〃	〃	〃	74
桓伊	(右軍)	〃	〃	〃	〃	〃	74
王愉	輔國	〃	〃	〃	〃	〃	75

桓	袁	謝	陶	毛	桓	庾	周	甘	任	荀	(4)	孟	劉	庾	何
沖	喬	尚	稱	寶	宣	懌	撫	卓	愔	崧		懷	毅	悅	無忌
寧朔、征虜	建武	將 (建武)、南中郎	南中郎將	輔國、南中郎將、 征虜	南中郎將		南中郎將	安南	南中郎將	南中郎將、平南	沔中都督區	衛·開府儀同	建威	(右)、鎮南	
假															
督、荆·雍·揚 七郡	督、沔中諸戍江 夏隨義陽三郡	督、 〃	督、 〃	監、江夏隨義陽 三郡	督、隨義陽二郡	監、沔中	監、梁雍	(督、監、沔北)	督、沔北	監、江北、都督 荊州江北		督(庾悅)同	江州都督	督、江·豫州西 陽新蔡汝南潁 川·司州(恒農) ·揚州(潁)松滋	都督、江荆二州 江夏隨義陽綏 安·豫州西陽新 蔡汝南潁川 十司州弘農·揚 州松滋
守二郡太	〃	〃	〃	〃	〃	江夏相	通鑑	梁	〃	〃		〃	〃	江	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	晉	〃	〃	〃	晉	宋	晉	宋	〃
74	83	79	66	81	82	73	92	58	70	98	75	47	85	52	85

鄧逸	鄧嶽	阮孚	阮放	劉顗	王舒	陶侃	(5) 廣州都督區	毛德祖	刁暢	楊佺期	郗恢	朱序	毛武生	毛穆之	羅崇	桓憲	劉惔
建威	南建武、征虜、平	鎮南	揚威	安南	開府儀同	平南、征南大		冠軍	輔國	建威、征虜	建威、征虜	南中郎將	(冠軍)	(冠軍)	友	建威、右	(征虜)
假	假	假	假	假	假	假		假	假	假	假	假	假	假	假	假	假
監、交廣	督、交廣	都督、交廣	監、交廣	都督、交廣	都督、交廣	都督、交廣		督、九郡	督、八郡	都督、梁雍秦	并、隴上	都督、雍梁沔中	監、沔中	都督、荆·雍	襄陽都督	督、沔中	監、沔中
守二郡太	守二郡太	守二郡太	守二郡太	守二郡太	守二郡太	守二郡太		雍	雍	雍	雍	雍	雍	雍	雍	雍	雍
81	81	81	81	81	81	81		81	81	81	81	81	81	81	81	81	81

桓石民 振威	桓沖 (車騎) 開府 征西、征西大	桓豁 (右) 開府 征西、征西大	桓溫 安西、征西 開府(義同)	庾翼 安西、征西	庾亮 征西 太尉	陶侃 征西大、太尉	王舒 平西	王廣 平南	甘卓 鎮南大	王含 衛	王舒 鷹揚	(6) 荊州都督區	王鎮之 建威	張裕 建武	褚裕之 建威	吳隱之 (右)	桓玄 建威	孔汪 征虜									
													使														
													都督、交廣	督、交廣	督、交廣	督、交廣	督、交廣	督、交廣	督、交廣	督、交廣							
													宋	宋	宋	宋	宋	宋	宋	宋							
												74	74	98	73	66	76	6	70	98	76	92	53	52	10	99	78

王允之 (假節)	庾亮 平西	(7) 豫州都督區	劉義隆 西中郎將	劉道憐 驃騎·開府儀同	劉毅 衛·開府儀同	司馬休之 平西	劉道規 征西	魏詠之 (輔國、建威)	桓玄 後	桓謙 西中郎將	桓石康 西中郎將	桓振 鎮西	桓偉 安西	殷仲堪 遠	王忱 建武	桓石虔 西中郎將	
持·假	持·假		假	假	假	假	假	使	使	假	持·假	持·假	使	使	假	假	使
監、揚州、江西、四	都督、豫、揚、二		都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州	都督、六州
史宣城內	史宣城內		史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內	史宣城內
76	73		5	51	85	37	51	10	85	99	74	99	74	98	84	75	9

毛寶	庾懌	謝尚	謝奕	謝萬	袁真	毛穆之	謝萬	桓沖	桓尹	朱序	桓石虔	何無忌	劉毅	劉道規
(征虜)	西中郎將	西中郎將、安西、建威	前、鎮西	安西	西中郎將	西中郎將	西中郎將	西中郎將	建威	西中郎將	冠軍	右	(撫軍、衛、開府儀同)	(征西、開府儀同)
假	假	假	假	假	假	假	假	假	假	假	假	假	假	假
監、揚州江西四郡	監、四郡	督、揚州六郡	都督、江西淮南 ↓+豫、揚五郡	都督、四州	都督、四州	監、四州	監、四州	督、揚州江西	督、揚州江西	都督、豫	(監)揚、豫五郡	監、豫、揚五郡	督、豫、揚五郡	都督、豫、揚五郡 ↓+宣城
豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫
81	73	79	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

諸葛長民	杜弼	柳純	周撫	周楚	周仲孫	毛穆之	劉琨	王邃	郗鑒
(輔國)	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍	巴東監軍
督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡	督、豫、揚六郡
守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太	守淮南太
85	85	85	85	85	85	85	85	85	85

桓 沖 車騎	王 坦之 北中郎將	郝 愔 平北	庾 希 北中郎將 (北中郎將)	范 汪 安北	郝 曇 北中郎將	荀 羨 北中郎將	褚 裒 左、衛、特進	桓 溫 驃騎	何 充 驃騎	蔡 謨 征北	郭 默 北中郎將	劉 遐 司空、太尉
〃	假	〃	假	假(使)	假(使)	使	〃	〃	〃	〃	假	假(使)
揚五州・六郡	都督、徐亮青	都督、徐亮青	都督、徐亮青	揚・晉陵	都督、徐亮青	都督、徐亮青	都督、徐亮青	都督、徐亮青	都督、徐亮青	都督、徐亮青	〃	監、淮北
徐	徐亮	徐	〃	〃	徐亮	徐亮	徐	〃	〃	〃	〃	徐
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
74	75	67	73	75	67	75	93	7	〃	77	63	81

(※節の種類不詳)

劉義隆	劉道憐	諸葛長民	劉裕	桓脩	劉牢之	王恭	朱序	譙王恬	毛穆之	謝玄	王蘊
(冠軍)	(左)		行鎮軍	右、撫軍、撫軍	(輔國)	平北、前	(龍驤)、征虜	鎮北	(冠軍)	建武、冠軍	左
使	(使)	使	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
監、徐亮青	都督、亮青	督、青揚	都督、八州	都督、六州	都督、六州、揚	都督、五州、徐	都督、五州、徐	都督、徐亮青	都督、徐亮青	監、江北	都督、京口(督、江南)
徐	徐	徐	徐	徐亮	〃	〃	〃	亮青	〃	廣陵相	〃
〃	宋	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	51	85	10	74	〃	84	81	37	81	79	93

(東晉時代)

揚州都督區の範圍はまちまちであるが、都督諸軍事の形が存在するのみである。太保、驃騎・衛將軍(開府儀同三司の者もいる)、中軍將軍、征虜將軍など一品から三品の位が與えられる外に、中書監(三品)の如く、内官を兼ねている者もいる。他の都督區では、都督、監、督諸軍事三形態が見られるが、荊州、徐州都督區では都督諸軍事が主であり、荊州都督支配下にある沔中都督では、督諸軍事の形が主となっている。

東晉における都督と將軍號などの關係をまとめると次の如くである。都督諸軍事に對しては、「四征」將軍を中心にして、太保、太尉、特進及び驃騎・車騎・衛將軍(各々の開府儀同三司、中には車騎大將軍・開府という場合もある)、下位では、西・北中郎將、中軍・鎮軍・撫軍將軍、後・右將軍、征虜・冠軍・輔國將軍、右軍將軍、建威・振威將軍、建武將軍など一品から四品に及んでいる。全體としては「四征」將軍を中心とした二、三品の將軍號が主體となっている。監諸軍事では、撫軍將軍、西・南・北中郎將、征虜・冠軍・龍驤將軍、建威・振威將軍、建武將軍などがあり、鷹揚將軍が五品の將軍として一例登場しており、三品から五品に及んでいる。四中郎將が多くなっているのが注目される。この四中郎將については後述する。督諸軍事に對しては、安南・安西將軍、南・西中郎將、左・右・後將軍、征虜・冠軍・輔國將軍、寧朔將軍、建威・振威・揚威將軍、建武・振武將軍など、三品から四品の將軍が與えられている。監諸軍事、督諸軍事に與えられる將軍號の中心は、ほぼ同じ三品、四品の將軍號であって、監諸軍事の方に四中郎將が多いと言えよう。これを西晉時代の都督と將軍號の結びつきと比較すると次の如く指摘できる。東晉時代においては、各都督區において、都督の三形態への分化が進み、都督諸軍事は二、三品の將軍號が中心となるが、「四征」將軍ばかりでなく、上下の將軍號を廣範圍に與えられるようになったこと、監諸軍事、督諸軍事は三品の將軍を上限とするが、監諸軍事と四中郎將の結びつきが増加したことなどである。ここで四中郎將の地位の變化について見ておきたい。

(二) 四中郎將の地位の變化

四中郎將は魏時代には督諸軍事のみと結びついて現われているが、西晉時代になると唯一の督諸軍事である督鄴城守諸軍事と結びつく場合の多いことは既に指摘した。西晉時代には四中郎將が都督、監諸軍事と結びついた例も僅かではあるが出てくる。

王渾 東中郎將、監淮北諸軍事、鎮許昌（『晉書』四二）

王浚 東中郎將、鎮許昌（『晉書』三九）

平昌公模 東中郎將（『晉書』四）

莊王確 東中郎將、都督豫州諸軍事、鎮許昌（『晉書』三七）

裴邵 東中郎將、使持節、都督揚州江西淮北諸軍事（『晉書』三五）

東晉時代において四中郎將は、都督、監、督諸軍事となっているが、監諸軍事となることが多かった。都督諸軍事になった場合は、荊州、豫州、徐州都督區において見られ、監諸軍事になった場合は、更に江州、沔中都督區においても見られる。これを全體から見ると、四中郎將は監諸軍事になることが多くなり、その將軍號としての地位が實質的に上昇したと考えられる。ところで『通典』の魏、晉、宋官品表や『宋書』の百官志では、四中郎將は四品として記載され、魏から宋に至るまで四品であったかの如くである。次にその官品の検討に移る。

魏における四中郎將任用者の官歴を必要部分のみ取り出すと次の如くである。

蔣濟 東中郎將↓散騎常侍（三品）（『魏志』一四）

吳質 北中郎將、使持節、督幽并諸軍事↓振威將軍（四品）、假節、都督河北諸軍事（『魏志』二一）

李胤 御史中丞（四品）↓西中郎將、督關中諸軍事↓河南尹（三品）（『晉書』四四）

これらの例から魏時代四中郎將は四品であったと言える。同じく西晉時代の例を見る。

王渾 東中郎將↓征虜將軍(三品) (『晉書』四二)

高陽王珪 北中郎將、督鄴城守諸軍事↓尚書(三品)、右僕射(三品) (『晉書』三七)

山濤 冀州刺史、加寧遠將軍(五品) ↓北中郎將、督鄴城守事↓侍中(三品)、尚書(三品) (『晉書』四三)

これらの諸例は西晉初期のものであるが、一應西晉時代、四中郎將は四品と考えられる。次に東晉時代の例を見る。東晉時代の都督に關連する將軍官品表を、二、三、四品について作成すると次表の如くである。四中郎將がA、Bの位置にくると考えられる史料が最も多い。例えば庾惔と庾希が輔國將軍からそれぞれ西中郎將、北中郎將へ號を進めている。^⑤ 朱序は征虜將軍から南中郎將へ進んでいる。^⑥ Aの位置と考えられる例は、譙王承が輔國將軍から左將軍へ、そして南中郎將へ

東晉將軍官品表

將軍號				二品
驃騎 車騎 衛 諸大將軍				
四征 四中 中軍 鎮軍 撫軍 四安 四平				三品
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 龍驤 輔國 冠軍 征虜 B 右 左 後 前 A </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 五武 五威 寧朔 </div>				四品

と進んだ例があり、^⑦ Bの位置と考えられる例は郭默が征虜將軍から北中郎將へ、そして後將軍へと進んだ例があり、^⑧ どちらとも東晉初期の例であるがA・B何れとも決し難い。しかしながら、四中郎將が三品の將軍として前・後・左・右將軍の前後の位にあったことは確實であり、東晉時代に入って、將軍としての位を四品から三品へと進めたと考えられる。先に四中郎將が督諸軍事から監諸軍事へと結びつきを多くし、都督としての地位を上昇させたのを見たが、それが官品上の地位の變化に表われていると言えよう。『晉書』職官志に、

四中郎將、並後漢置、歷魏及晉、並有其職、江左彌重。

とあるのは、四中郎將のこのような状態を示し、『宋書』百官志上、凌江將軍の項に、

自左右前後將軍以下至此四十號、唯四中郎將各一人、餘皆無定員。とあるが、晉代にも四中郎將は各々定員が一人であったと考えられる。

(三) 都督の將軍號の意義

魏の時代、都督の形態としては、都督諸軍事が主となっており、ほとんどが「四征」將軍と結びついていたと言っても過言ではない。魏時代、主として「四征」將軍が都督を領職としていたのである。しかしながら、都督諸軍事が「四征」將軍の枠からはみ出て、上位、下位の將軍と結びつくこと、監諸軍事、督諸軍事が四中郎將をも含めて、三、四品の將軍と結びつくことなど、僅かながらも西晉時代以降への變化の萌しが見られる。そして東晉時代に至り、上述したような展開を見せ、都督が形態の分化を遂げつつ、「四征」將軍ばかりでなく、四中郎將とも結びつくことが多くなり、更に上位、下位の將軍號なども廣範圍に結びつくようになった結果、「四征」將軍號は、將軍號體系の中で、上下關係を示す將軍號という性格をより一層帯びてきたと考えられる。ところで筆者は以上の考察において、將軍號が都督に與えられるとか、結びつくとか些か不意な言い方をしたと思う。東晉時代になっても形式的には將軍が都督を領職としたのではあるが、ただ都督を領職とする將軍などが、「四征」將軍以外にも上下に渡って廣がりを見せ、あたかも都督が中心的存在で、その都督に將軍號が與えられるような状態になっていたからである。四中郎將の地位の變化について見たように、四中郎將が都督を領職とすることにより、都督としての活躍の場を得るようになって、四中郎將の地位が上がり官品に變化をもたらしたと思われる。その逆ではなからう。従って領職としての都督の機能が重要になったと考えられる。では都督と結びついている將軍號は何を意味しているのであろうか。

この時代、將軍號は、軍事擔當者の資格、權限ばかりでなく、官僚組織の中での上下關係をも表わす役割を持っている。それは文官と武官とが同一の官品體系の中に組み込まれていたことによって知ることができる。これを實際の人物

の官歴によって示すと次の如くである。

山濤 奉車都尉（六品）↓加寧遠將軍（五品）・冀州刺史（四・五品）↓北中郎將（四品）・督鄴城守事↓侍中（三品）
尚書（三品）（『晉書』四三）

盧欽 都督河北諸軍事・平南將軍（三品）・假節↓尚書僕射（三品）、加侍中（三品）奉車都尉（六品）、領吏部（三品）
（『晉書』四四）

向雄 御史中丞（四品）↓侍中（三品）↓征虜將軍（三品）↓河南尹（三品）（『晉書』四八）

郝鑒 輔國將軍（三品）・都督兗州諸軍事↓領軍將軍（三品）↓尚書（三品）（不行）↓安西將軍（三品）・兗州刺史（四・五品）・都督揚州江西諸軍事・假節↓尚書令（三品）↓車騎將軍（二品）・都督徐兗青三州軍事・兗州刺史・假節↓車騎大將軍・開府儀同三司（一品）・（都督・刺史）↓司空↓太尉（『晉書』六七）

王坦之 左衛將軍（四品）↓中書令（三品）・領丹楊尹（三品）↓都督徐兗青三州諸軍事・北中郎將（三品）・徐兗二州刺史（『晉書』七五）

これらの例は、官僚として任官していく中で、中央文官の官品が將軍號の官品にも受け継がれていく状況を示している。都督は將軍の領職と考えられるから、その官界での資格は、この將軍號によって規定されると思われる。山濤の督鄴城守事は四品、盧欽の都督河北諸軍事は三品、郝鑒の都督徐兗青三州軍事は二品、續いて一品の資格があったと考えられる。このように解釋できるとすれば、都督の三形態と將軍號についてはどうなるであろうか。東晉時代では、都督諸軍事と結びつく將軍號は一品から四品に及ぶけれども、全般的に見ると「四征」將軍を中心にした二、三品の將軍號が主體となっていた。従って都督の資格としては二、三品のものが主體となっていたと考えられる。そして都督諸軍事は昇進によって最終的には二品將軍を與えられ（開府位從公一品は特別）、二品の資格を持ちうる職務になったのではなからうか。既に持節と都督との結びつきが一般的となったこの段階において、『通典』職官、晉官品表の第二品の條に「諸持節都督」が記載

されているのはこのような背景があると考えられる。そして一部にあっては、持節、都督諸軍事が二品であるかの如く認められるようになり、その結果がそのような記載となって表われたのではなからうか。同様に解して、監、督諸軍事に與えられる將軍號は三品から五品に及んでいるが、その主體は三、四品であり、監、督諸軍事は最終的に三品の將軍號を與えられる存在となり、三品の資格を持ちうる職務であったと考えられる。従つて『通典』の記載をもつて、晉時代、持節の都督がすべて二品であるとい律に解釋するのは無理があると思う。

おわりに

「四征」將軍は、魏時代、領土内の四方面において内亂外寇に當たるために、都督を領職として活躍した。「四征」將軍號自體はそれだけで一品から三品の資格を持っており、都督を職務として「四征」將軍だけで位を進めることができ、初めは「四征」將軍と四品の四中郎將だけで地方の軍事に當たるように考えられていたと思われる。西晉、東晉時代の内憂外寇の繼起する狀況は、地方において軍事を最優先の課題とさせ、都督の職務の重要性は一層高まる。東晉時代、四中郎將は領職である都督の役割が増した結果、官品を上昇させている。都督區の擴大、分化、都督自身の形態分化など都督制度の發展も見られる。形式的には將軍が都督を領職としているが、都督を領職とする將軍は「四征」將軍以外にも上位、下位に廣がり、外見はあたかも都督が中心的存在になったかの如くである。このような状態になると、「四征」將軍號は、それぞれが將軍號體系の中の一將軍としての性格をより一層帯びるようになり、本來の特色が失われた。又、そうした都督と結びつく將軍號を検討すると、領職としての、都督・監・督諸軍事の官界での地位を捉えることができる。都督諸軍事は二品の、監・督諸軍事は三品の資格を持ちうる存在であった。そして、この將軍號體系は、將軍號の虛號化の問題を生じさせるが、更に検討したい。

註

- ① 本稿では、都督州(郡)諸軍事(外に監諸軍事、督諸軍事の形態がある。)を都督と稱する。
- ② 嚴耕望『中國地方行政制度史』上編三、四(中央研究院歷史語言研究所專刊之四十五、一九六三)。
- ③ 本稿では、征東、征南、征西、征北、鎮東、鎮南、鎮西、鎮北、安東、安南、安西、安北、平東、平南、平西、平北、各將軍及び、各々の大將軍、開府儀同三司の場合も含めて「四征」將軍と略稱する。
- ④ 越智重明「晉代の都督」(『東方學』第一五輯、一九五七)。
- ⑤ 宮崎市定『九品官人法の研究』(東洋史研究會、一九五六)第三章、一二、將軍號の發達。
- ⑥ 『晉書』卷三四。
- ⑦ 『晉書』卷四二。
- ⑧ 註⑥に同じ。
- ⑨ 『晉書』卷六一。
- ⑩ 『通典』卷三六。
- ⑪⑫ 『通典』卷三七。
- ⑬ 本稿での「四征」將軍と同じ。
- ⑭ 『宋書』卷三九、百官志上、持節都督の項。
- ⑮ 前掲嚴氏著書、上編三、第二章、(1)都督。
- ⑯ 『晉書』卷二四。
- ⑰ 『隋書』卷二六。
- ⑱ 嚴氏前掲書、上編三、第二章、(1)都督。
- ⑲ 靜嘉堂文庫藏、竹添博士校宋本通典に依った。同校宋本通典については、仁井田陞「通典刻本私考」(『東洋學報』第二二卷第四號)参照。
- ⑳ 註⑱
- ㉑ 拙稿「曹魏における「四征」將軍」(『廣島大學教育學部紀要』(第二部第二六號、一九七八)において若干述べた。
- ㉒ 註㉑拙稿参照。
- ㉓ 註⑩
- ㉔ 『宋書』卷三九。
- ㉕ 『魏志』卷四、少帝紀。
- ㉖ 『魏志』卷二七、本傳。
- ㉗ 『魏志』卷二六、本傳。
- ㉘ 『魏志』卷三三、本傳。
- ㉙ 嚴氏前掲書、上編三、第一章、下、都督區。
- ㉚ 西晉、東晉都督任用表における記載順序は、概ね任用された時期に基づいているが、任用時期が重なっている場合や、任用時期の判定が困難な場合もあって、前後することがある。將軍號、持節、都督の記載順序は一定しないが表の如く統一した。
- ㉛ 征東將軍、假節、都督揚州諸軍事は、征東、假、都督揚、開府儀同三司は、開府儀同など、その他、適宜省略した場合がある。將軍以外の者が都督となる場合、それを將軍號の項に記した。(一)は史料からの推定によって可能性のある場合を示す。
- ㉜ 『晉書』卷七三、庾亮傳。

③ 『晉書』卷八一、本傳。

④ 『晉書』卷三七、宗室傳、譙王遜。

⑤ 『晉書』卷六三、本傳。

⑥ 王坦之は東晉中期に、中書令（三品）領丹楊尹（三品）から都督徐兗青三州諸軍事、北中郎將、徐兗二州刺史となったが、在官中卒し、安北將軍（三品）を追贈されているが、北中郎將を三品と考えてよい。（『晉書』卷七五、王湛傳）

⑦ 越智氏註④論文参照。本稿では、節について、特に検討していないが、西晉、東晉都督任用表に依れば次の如くである。節を持つ者は都督諸軍事が極めて多く、以下少なくなるが、監諸軍事、督諸軍事の順序になる。假節を與えられる者が最も多い。使持節を與えられる者は都督諸軍事に多いが、その場合、都督の將軍號は、高位のもの低位のものがあり、必ずしも對應していない。

until under the *li-chia* 里甲 system of the Ming the landlords acquired judicial rights with respect to their tenants. On the other hand, the legal status of tenants under the Northern Sung had been lower than that of other citizens. But, contrary to the accepted view, it cannot be said that this status declined still further during the Southern Sung; rather, until the Yuan at least, their status remained that of ordinary citizens.

II. The distinction of status between landlord and tenant during the Sung is expressed by two phrases: *chu-t'ien chih fen* 主佃之分, or "landlord-tenant," and *chu-p'u chih fen* 主僕之分 or "master-servant." The landlord-tenant relationship represents a contractual relationship for the payment of rent, as in the Ming and Ch'ing periods. Thus although an edict of 1372 says that this relationship is one between elder and younger 長幼之序 (i. e. between superior and inferior), this is merely a loose phrase to express special circumstances. However, the master-servant relationship was of a completely different kind; this was the class known in the Sung as *t'ien-p'u* 佃僕 or *ti-k'e* 地客 and the precursors of the *t'ien-p'u* and *chuang-p'u* 庄僕 of the Ming and Ch'ing.

III. With the exception of Szechwan, the tenants of the Sung period could, when the harvest was completed, legally change their place of residence. Thus, the tenants were not legally bound to the land. In fact, however, many tenants were either bound by debt or had a relationship of the indentured type; unless these obligations were discharged, they could not change their place of residence.

On the Titles of "General" 將軍 and "Governor" 都督 in the Chin Dynasty

Obi Takeo

This article is concerned with developments in the role of "*Ssu-cheng*" 四征 generals and the description of the system of "governorships" 都督 in the Chin dynasty. (By "*Ssu-cheng* generals," I include such titles as

Ssu-cheng 四征, *Ssu-chen* 四鎮, *Ssu-an* 四安, and *Ssu-p'ing* 四平 generals, and other major posts; by "governorships," I mean the posts of *Tu-tu chu-chün shih* 都督諸軍事, *Chien chu-chün shih* 監諸軍事, and *Tu chu-chün shih* 都督軍事).

In the Wei Dynasty of the Three States period, "generals" when serving in charge of military affairs in the provinces usually had the function of "Governors". Of these, the most important was the *Ssu-cheng Chiang-chün*. It is thought that the area of military jurisdiction of these officers was determined by their "governorships" which, centered on the capital, reached out in every direction to include the provinces 州. However in the Eastern Chin, which was centered in South China, it became difficult to carry out military administration based on these geographical units.

In the Chin dynasty, in addition to the title of *Tu-tu chu-chün shih*, held concurrently with grades one through four of court rank, generals ranked below the third grade held the titles of *Chien chu-chün shih* or *Tu chu-chün shih*. Not only the title of *Ssu-cheng Chiang-chün* but other grades both higher and lower, were held with the title of *Tu-tu*.

In the Eastern Chin, this tendency was even more pronounced. In the Wei and Western Chin, the title of *Ssu-chung lang-chung* 四中郎將, of the fourth grade, was given to the *Tu Chu-chün shih* 督諸軍事, but in the Eastern Chin was given increasingly to the *Chien chu-chün shih*, which had been raised to the third rank. From this we can see that the importance of the office of *Tu-tu* was increasing, and the titles of "general" merely expressed the military responsibilities of the office. The rank of *Ssu-cheng Chiang-chün*, then, was merely one of these titles.

The "general" ranks, associated with the nine-grade system, expressed status within the system of military and civil office. Thus, in the Eastern Chin, judging from the associated military ranks, the title of *Tu-tu chu-chün shih* expressed rank of the second grade, while those of *Chien chu-chün shih* and *Tu chu-chün shih* expressed rank of the third grade.